

塘研究室現地調査報告 09

8月18日に表磐梯にて現地調査を実施しました。林宏至朗君の調査の第5回目で、塘と兼子研究室の佐藤君が同行しました。植生調査に毎回同行して指導してもらっていた黒沢研の首藤君が今回はいなかったため、林君にとっては独り立ちの調査となりました。

池の水面はほぼ浮葉植物で覆われ、タヌキモは満開を迎えました。池の周囲の林内には相変わらず夥しい数のアオイトトンボが生息しており、池内のヒルムシロに覆われた場所ではオオルリボシヤンマが盛んに産卵していました。アカネ属（アカトンボ類）の成虫の種数が増え、今回は7種類（アキ、ナツ、マイコ、マユタテ、リス、キトンボ、ノシメトンボ）を確認しました。前回多かったガマ食のホソネクイハムシの個体数は減り、代わりにジュンサイ食のガガブタネクイハムシの個体数が増えました。



ボートを使用した池での調査



タヌキモの花は満開



産卵中のオオルリボシヤンマ



キイトトンボ



ガガブタネクイハムシ



ホソネクイハムシ